

## FRBの「出口戦略」反転で強まる日銀への圧力

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

米連邦準備制度理事会(FRB)は、昨日開催された連邦公開市場委員会(FOMC)で、景気判断を下方修正し、追加の金融緩和措置を決定しました。FRBは、景気判断について「生産と雇用の回復ペースはこの数カ月間で減速した」との見解を示し、景気回復を支援するため、金融危機以降に買い入れた政府機関債や住宅ローン担保証券(MBS)などの償還金を米長期国債の購入にあてる方針を示しました。国債購入が行なわれることで、長期金利の低下を促す効果や、市場への資金供給量を維持し量的緩和を図る効果が期待されます。

今年に入ってFRBは、政府機関債やMBSなどの資産購入を停止し、市場への資金供給を絞ることで、金融政策正常化に向けた「出口戦略」を採ってきましたが、今回の資産購入決定によってこれまでの「出口戦略」を再び緩和方向へと反転させたこととなります。

今回のFRBの景気判断下方修正と金融緩和で、米長期金利の低下傾向が続くと見られ、日米金利差縮小観測が円高要因になると予想されます。FOMCに先立って日本では昨日、金融政策決定会合が行なわれましたが、日銀は追加の金融緩和措置を見送っています。FRBが金融緩和に動いたことで、このまま日銀の様子見姿勢が長引くようなら、日米金融当局の方向感の違いが為替市場で円高材料と捉えられる可能性も出てくると考えられます。また、円高の長期化は、回復のすそ野が広がりつつある国内景気や回復途上にある企業業績を下押しするリスクも伴うことから、日銀に追加緩和を促す圧力は今後ますます強まるものと見られます。過去日銀の姿勢が円の方向性を変えてきただけに、しばらく日銀の動きに注目する必要があるようです。

円/米ドル・レートと米10年国債利回り  
(2009年9月1日～2010年8月10日)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。